安心安全のまちづくりのために

緊急事態宣言も解除され、徐々に日常生活を取り戻しつつありますが、それに伴い犯罪・事故等も増加傾向にあります。今月は加古川警察署長の角田署長にお話を伺いました。

兵庫県加古川警察署長
警視正　角田（すまだ）　正文（まさふみ）さん

飲酒運転しない、させない

こんにちは！４月に加古川警察署に着任した「すまだ」です。漢字も読み方も珍しいでしょう？初めての加古川署で忙しい毎日ですが、活気と熱意溢れる署員とともに充実した毎日を過ごせています。

コロナ禍で飲酒運転も一時期減っていましたが、飲食店の時短要請が解除された途端に検挙数が多くなりました。「自分は事故を起こさない」という思い込みは危険です。飲酒は少量であっても自律神経を乱し正常な判断を失います。これから忘年会や新年会が増えてくると思いますが、参加される皆さんは「飲酒運転をしない、させない」の強い意志を持ち、企業の責任として徹底をお願いします。

また特殊詐欺の被害が後を絶ちません。手口は巧妙化しており市職員や警察を騙り、時にはニセ医者やニセ弁護士まで登場し、言葉巧みにATMで送金させる方法が多いですね。「私は引っかからない」と思うかもしれませんが、その時になると相手の話に引き込まれ「今日中」「すぐに」という言葉に焦って振り込んでしまうのです。市町や公的機関が返金に関する手続きを電話連絡することは絶対にありません。またATMでの操作や「今すぐ」などといった手続き方法もあり得ません。

被害に遭わないようにするには、ナンバーディスプレイにして知らない番号には出ないことや録音機能なども相手が警戒するため有効です。何よりも「簡単にお金はもらえない」という意識を強く持ってください。

余裕を持った運転を

人口が多く自転車利用や自動車の通行量が多いこともありますが、管内の交通事故件数は県下一となっています。

自転車は免許無しで運転できるため「軽車両」という意識が少ないようですが、自動車同様に一時停止等、法規で決まっています。しかし、車間をすり抜けたり横断歩道が無い所を渡る乱横断や右側通行などが多く見受けられ危険な状況です。

怪我をするのは自分です。自分自身を守るためにもルールを守り安全運転をお願いします。

自動車の運転は特に余裕を持った運転と安全意識の向上に努めてください。先程申し上げたすり抜けや乱横断者への注意、日頃走り慣れた道での油断など、常に「もしかしたら」の意識を持っていただき「もしかしたら飛び出してくるかも」「もしかしたら走っている自転車が転倒するかも」などを考え、常に注意を怠らないようにしてください。

冬季は夜間の事故が多くなる季節です。夕暮れ時など自転車も自動車も早めに点灯し、自動車は対向車などに注意しながらハイビームを活用してください。

地域に寄り添う警察

常々、署員には困っている人を助けるのが我々の仕事で、相談を受ければ真摯に対応しなければならない、そして、警察が主体となるようなことではなかった場合は、関係機関に引き継ぐことと言っています。皆さんが安心して暮らせる街となるよう、署員一丸となって精一杯つとめてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。